

# 支部だより 第21号 (1995-02-17)

Newsletter of the Kansai Chapter, Society for Research in Asiatic Music  
 イフ" シフ"タ"ヨリ シャタ"ンホワ"ン トウヨウオンカ"クカ"ツカイ カンサイイフ" シフ"タ"ヨリ シャタ"ンホワ"ン トウヨウオン

## 定例研究会のご案内

(社) 東洋音楽学会関西支部 第172回定例研究会

非会員の方々にも公開 (無料)

とき 1995年3月5日 (日) 14:00-16:30

ところ 大阪国際交流センター会議室4 (3F)

今回は日曜日です。

ご注意ください。

14:00-15:00 [連続講座] <音の今昔>

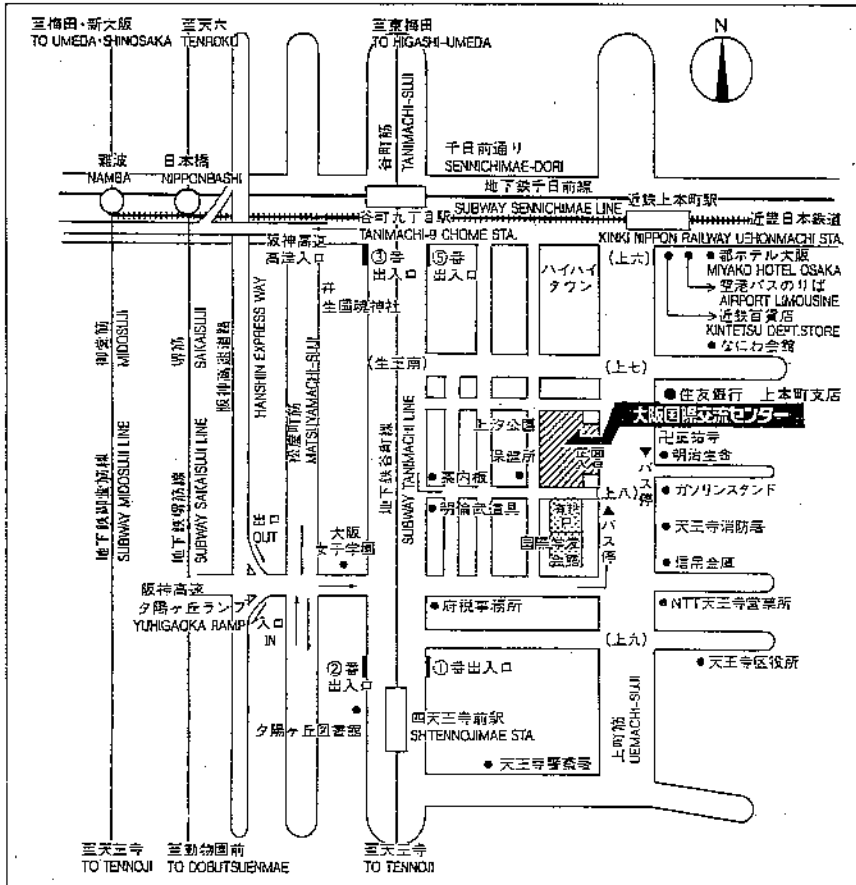
司会 小西潤子

「楽器づくりの今昔 - 箏の製作にみる材料・技術・作り手の心」 平田勉

15:15-16:15 [連続講座] <音の今昔>

「わらべうた - 変わりやすいものと、変わりにくいもの」 泉健

付記: 定例研究会に先だって当日、関西支部役員会が開かれます。理事・地区委員・参事の方々は別紙の案内状をご覧ください。



大阪国際  
 交流セン  
 ター  
 (アハス)  
 Inter-  
 national  
 House,  
 Osaka

☎(代)06-  
 772-5931

〒543  
 大阪市  
 天王寺区  
 上本町  
 8-2-6

地下鉄  
 「谷町九  
 丁目」  
 (谷町線  
 ・千日前  
 線) 出口  
 ①⑤から  
 10分  
 近鉄「上  
 本町」か  
 ら5分

第172回定例研究会連続講座要旨(予告)

「楽器づくりの今昔 - 箏の製作にみる材料・技術・作り手の心」 平田勉

箏(琴)の製作工程を(1)製材(2)乾燥(3)甲造(4)装飾(5)仕上げの5段階に整理して、箏の作られるプロセスを概略する。また、材料、製作技術、工具・治具等を紹介するとともに、これらが示す新旧の事情を対峙させながら、箏をとりまく社会的、技術的環境要因を抽出する。

つぎに、抽出されたさまざまな環境要因に裏づけられて、箏の材料が内的、外的変化により、どのように変遷してきたかを考察する。同様の視座から製作技術についても論じ、材料と製作技術との相関関係を見いだす。そして、これらが相互に補完しながら製作技術体系を構築していることを論じる。

さらに、作り手の心が作用することにより、工業製品の側面と日本固有の民族楽器としての側面の双方をバランスよく兼ね備えた「もの」が箏(琴)であると結論づける。

「わらべうた - 変わりやすいものと、変わりにくいもの」 泉健

1985年から1990年にかけて、和歌山県のほぼ全域にわたる17市町村でわらべうたの調査を行ない、延べ1100曲あまりの歌を収録した。この度それらの分析結果を『音階と日本人 - 和歌山県のわらべうた研究』(柳原書店、1995)としてまとめる機会を得た。今回の報告では、この調査結果に基づきながら、わらべうたの主として遊びの種類と音階に関する変化の諸相、すなわち「音の今昔」を考察していきたい。

近年、子供を取り巻く生活環境は著しく変化している。そのことはわらべうたにおいては、遊びの種類や遊び方(省略短縮等)や歌詞等の変化に明確に反映している。これらの諸要素の通時的变化に関しては、明治以降のさまざまな時代の様子を伝える文献(藤本浩之輔『聞き書き明治の子ども - 遊びと暮らし』(本邦書籍、1986)等)を通して、その変化の様相を把握することが比較的容易である。一方音階やリズム等の音楽的要素に関しては、音としての古い記録が非常に少ないために、それを把握することが大変困難である。しかしわらべうたには、当該の民族の基層にある音楽的感性が比較的明確な形で現れる。したがって音階に関しては、まず現代のわらべうたを調査しその音階を分析することによって、現代の日本人の音楽的感性の様態を把握することが可能となるであろう。そして次に異文化の受容の問題として、その音階を、明治以前から存在する伝統的音階と明治以降西洋との接触によって現れてきた非伝統的音階とに分類し、その比率を計算することによって、明治以降、音階に関する日本人の音楽的感性が西洋音楽からどれくらい影響を受けたかの概要を知ることができるであろう。なお和歌山県の南部には、高低アクセントが他と異なる地域があり、そのわらべうたの音階の問題を、柴田南雄理論によって考察した結果も紹介したい。これは日本語の音程関係と音階の問題を研究するために行なっているものである。

第171回定例研究会記録  
(日本音楽学会関西支部第254回例会と合同)

「アメリカ・インディアン音楽研究における永続的課題」 ブルーノ・ネトル  
報告：山口修

「多年にわたる民族音楽学の研究と教育の功績にたいして」第5回(1993年度)小泉文夫音楽賞を受賞したネトルが、授賞式のために来日し、関西にも足をのばしてくれた結果実現できた企画であった。最近でこそポピュラー音楽やモーツァルトを民族音楽学的に扱う学者として知られているが、彼が本来専門とするアメリカ・インディアン音楽研究をあらためて振り返るのが一番の趣旨であった。採譜や分析の問題点がかつて論議されていたような単純なものではなく、音楽理解の本質的な手段として有効であるのか否かが問題提起されたのが印象的であった。終了後、本学会会員諸氏とともに京都から大阪へむかい、梅田で炉端焼きを囲んで談笑できたのも楽しい思い出である。

支部長挨拶

山口修

関西支部会員のみならず、とくに阪神間にお住まいの方々には、この度の震災のお見舞いを心から申し上げます。この「支部だより」が全員に無事到着すればよろしいのですが。私自身も自宅および研究室でかなり被害がありましたが、こうして遅ればせながら「支部だより」をお届けできる状態にどうかこぎつけました。

このたいへんな時期に2期目の支部長をつとめることになり、ショックから立ちあがる努力を学会の場でも惜しまないつもりです。本年秋には大会も引き受けましたし、定例研究会や日常的な活動を通じて関西支部の気炎をあげるべく、ほかの役員諸氏と力を合わせてゆく所存です。ご協力をお願いします。

お詫びして訂正します。

★「支部だより」第20号1頁第170回定例研究会の記録

[誤] 峯雅彦(大阪芸術大学) → [正] 峯雅彦

★「会報」第33号7頁、右欄、参事(関西)

[誤] (総務・経理) 広瀬信夫、幸野智子 → [正] (総務・経理) 廣瀬信夫

1994・1995年度関西支部役員名簿(1994年10月29日～1996年10月28日)

[理事] 山口修(支部長・例会・広報) 櫻井哲男(機関誌)

月溪恒子(総務・経理・広報) 藤井知昭(例会)

[顧問] 片岡義道

[参与] 小野功龍 酒井諄 谷村晃 仲芳樹 中小路駿逸

難波正 牧野英三 馬淵卯三郎

[地区委員] 久野壽彦 高橋昭弘 安田文吉(以上、中部地区)

網千毅 泉健 岩田宗一 澤田篤子 志村哲 志村哲男

中川真 梁島章子 山田智恵子(以上、近畿地区)

岡田千里 片桐功 塚田健一 原田宏司 山田陽一(以上、中国地区)

松永建、松原武実、宮崎まゆみ(以上、九州地区)

[参事] 植原素子(例会・広報) 小西潤子(例会・広報) 田井竜一(機関誌)

中原ゆかり(例会・広報) 廣瀬信夫(総務・経理)

福岡正太(例会・広報) 福岡まどか(機関誌)

今後の定例研究会 開催予定 および 発表の公募

今期の役員が今後企画運営すべき定例研究会は以下の通りです

(日取り、会場とも交渉中ですから、変更もあり得ます) 「支部だより」での案内

↓↓

第173回 1995-05-13(土) 相愛大学(大阪市住之江区) 第22号 (04-28 発行予定)

第174回 1995-07-01(土) 大阪芸術大学(南河内郡) 同上

第175回 1995-09-02(土) 国立民族学博物館(吹田市) 第23号 (08-10 発行予定)

[参考 1995-09-30(土)~ 10-01(日) 大阪大学(豊中市)第46回大会

「会報」掲載予定]

第176回 1995-11月下旬または12月上旬 未定 第24号 (発行日未定)

第177回 1996-2月 または 3月 同上

第178回 1996-4月 または 5月 第25号 (発行日未定)

第179回 1996-6月 または 7月 同上

第180回 1996-9月ころ 第26号 (発行日未定)

第181回 1996-11月ころ 同上

◆申込方法 連続講座<音の今昔>、フリーの研究発表等、歓迎します。ただし、申込多数の場合など、必ずしもご希望に添えないこともあります。あらかじめご了承ください。発表の種別(連続講座、研究発表、調査報告、資料紹介、研究演奏等)、題目、希望使用機器、希望日、氏名、連絡先をはがきに明記のうえ(またはファクスにて)、下記宛ご送付ください。

◆送り先 関西支部事務局(大阪大学文学部山口研究室気付)

◆第176~181回のうち1~2回を近畿地区以外のところで開催できれば、と考えております。地区委員の方々および一般会員の方々からのアイデア・ご意見を歓迎します。

住所等の変更は支部事務局ではなく学会本部へお知らせ下さい。

〒162 東京都新宿区市谷左内町3番地 正派邦楽会館内 (社) 東洋音楽学会  
☎ 03-3268-1237 FAX 03-3268-1238 振替 東京 00160-6-55723

発行 (社) 東洋音楽学会関西支部

[番地・住所表示およびファクス番の変更にご注意を]

〒560 豊中市待兼山町 1-5 大阪大学文学部音楽学研究室気付

ファクス 06-850-2151 (電話連絡を避けていただくため電話番号は記しません)  
5121